文恭院實紀

三十五

享和三年癸亥自七月至十二月

内閣文庫
和書
類 三六〇六四
號 五五
冊 二三一
函 一四
架

内閣文庫
和書
類 三六〇六四
號 五五
冊 一四九
函 一五
架

内閣文庫
番號 和 36064
冊數 55 (35)
函號 149 36

国立公文書館
National Archives of Japan

享和三年癸亥七月
至十二月

文恭院實紀

三十五

国立公文書館
National Archives of Japan

文恭院殿御實紀卷三十五　享和三年七月より十二月まで

七月朔日月次の御賀例のごとく増山河内守

正寧三宅備後守康友保科肥前守正直松

加賀守忠有板倉加賀守忠[illegible]

まじ物あり[illegible]杉平左[illegible]

いとまいつまつる[illegible]の六人未貪右京昌俊京極

一を謝し於り相伴小姓組番頭木多大隅守政

房出仕番頭とみり小普請組の支配宝賀[illegible]

当正月小姓役の者共とする田安左衛門智斎医
卿法麻疹酒湯済まさせ〜まして〜ようり小老井伊
弓部少輔出頭して鮮鯛を、くさ〜さ〜ほ又ハ
書院松平丹後守伝達用〜与次書士も坂城成
役の時出陣者り成瀬因幡守正定も赴任の時
めふおの〜物相田の如〜伝授者り於未形吉
正義任官より物り渡ル
二日吉社の祭り阿部播磨守正由勅定者り不

川左近将監左右房東叡山ヨリて
心観院殿法華経の子命さ〜れ西尾隼人守
左衛門〜山の経蔵法華寺ハる獅物うさ水上大吉
正賀老免〜て小普請とちる慶金を仰ふ
三日清水勅書左右ハ武蔵庄左衛門安徴養子出院
書米吉郎右衛門合出若川岩吉郎学子乙三郎
永〜め父死〜て家つくもの十人
六日七夕の法祝とて三家のうさ〜出〜め

その他乃ともがら
七日七夕の佳賀祝のこと
八日東叡山
浅明院殿霊廟ゟ杉平伊豆守信明代参
合指揮をもつて久貝右弟ゟ正貞小普請組の支
配となり先年ゟ沢栗山猛之丞元夏（栗係）杉尚沢と
なるまゝ栗合寄本縫殿助忠美井川口寄と
なる浅膳寄り永田杉次郎忠義西城ようつさ

ゟ動定小高伝左衛門助久右弟ゟ智方の形寄り
となる又寄小浦宣印ゟ越生祝穂ゟ任職と
せらる
九日少姓組中山勘右弟ゟ伝祇祢保花内書通
有田ゟ助貞英出仕寄形ゟ助定坊小納
戸となる寄内書通小杉五右弟ゟと改む又大目
付久内縫殿沢書考子孫太郎（考ヵ）　西博少姓杉浦
書門書猪俣長太郎孫太郎孫義ともよめ出さ

れ三百芭仏し小納戸とする

十日勅定男谷平蔵忠固一与頭とさるる

十一日家令杉平孫大夫勅海同寮の指揮令せ

る東弥勒寺

護持院護玉寺兼任職令を

らる

十二日三緑山

惟伝院殿霊廟より戸田采女正氏教代参この

日当番より准ずる雨雪村垣左大郎定則沿路

参りとなる勅定御沢水路普九郎左衛門沿殿詰と

さるる

十三日当寺庫弱朱根大内記政永小普請奉行

有田摂津守貞稔こし西城海関形ずる搬

送の事ありしより時後を終るその他不

屬のともがら仏物者あり小納戸田造十左衛

門惟中小姓組より後さる

十四日弱蓮山

東叡山

玉心院殿霊牌不手法例ハ大和守参行代

東叡山

諸廟ヲ法諸あり

十五日本元の少祝として三家のうさく供

まいりに日〳〵京都本條河内守伝義して

時ふく二十場ニ方ヶ〳〵奏者番松平右近将

監武厚張二百枚時ふく十金料としてさ

ゝ

十七日 東叡山

御宮ヲ戸田采女正氏教代参

十八日濱の庭園ヲ始ヲ〳〵きまり毎日の

魚ヲて漁夫の業祝ふ家合河野善十郎面

朱子孫ヲ助

曽根五郎兵衛次彭子孫助

奥津内記ハ子五太郎ハ花房清左

衛門幸佐子叡屋幸久ヲ〳〵め父病ヲ

役仕子家つくものせ人

二十日西條小十人頭小林弥兵衛ニ秘先手弓
頭と為り大番与頭久留原三郎ニ邦西條小
十人頭と為る
廿二日紀水西黄門及水戸より諸藩の告天
子五十つゝ献ずふさる法度ち例のさるれり注
川前黄門重倫ハつゝ躍伏て献ちいさるこの
日大番伊達庄左衛門汲養金を下さる老衰ゆ
ゑれいれり

廿三日冨合宮賀谷庄ニ縄おれ〳〵行燈と為り
神保右近茂和ハ不浄川火災巡視命をゝるこ
の日尾張中将の方へ雲雀を給ふる法度ハ小姓
組番ニ津田山城守信久れり又供番て給ハ
る等形平越前守父孫仕左ニ勝智重富ハ
め十七人
廿四日東叡山
孝恭院殿霊廟ゑ少老京極備中守高久代

治好

同じ

年に奏者番兼ねて社寺奉行に任ぜられ
病ようやく快方に向かうを待ちて免ぜられ奏者
番ハそのまゝあるべしとなり
廿五日光の立ち寄雲院に参詣して安
示の院宮病平ならざるゆえ出檀既その他法
供ものされしを謝せらるゝ原この日奥州法華
の雲雀三十つを老臣へ下さる
廿六日光の立供して菩提寺法婚嫁伝出

さるゝ寺参詣ありさるゝ
廿八日月次の奥参例のごとく小笠原伊豫守
殿茶多頂戴ありて康定完実系親王内義参前守
伝教酒井大学殿礼紙封のいとまたまハ
る供番小菅特右衛門西容出仕番一色源次郎
出美坂地日付ようされて味たまハる紙相ハ旧
二回源次郎出美子幾之助出方初見したて
まつる

廿九日大雷杉平市三郎正意同一与既とな
る函嶺関方納戸大雷より物雷ようつ
ふるの十人小普請より獲物方へ力るもの一
人
八月朔日八郎の佳儀統のことこの日水
戸の郎より初鮭を献そうる又城より男
沼子沼生誕あ法被お草の方こいつひより沼弘
めいしうまたとふる

三日函嶺寺居大久保内膳正忠寅子小姓組義
方家門忠寅より父死して家督くものこ人
五日奥右筆同丹吉義正純函九度義雷の
跡とふる
六日小姓多村頂波吉郎見小納戸熊倉弦吉
義言有同七三郎貞英とふる函嶺ようつ
八日赤飯山
潮的明殿霊廟十五井大炊頭利厚代参元小

普請より納戸よりのもの一人
九日奏者番水野出羽守忠成を兼
しめらる
十一日肥前国平戸侍田村浦兵衛尉雅幸法
名外記清ふまゝ宗家を始め清家士松
浦典侍某子重三郎良を以て嗣子とし
遺領一万石を襲しこの雅ハ伊豫守宗ゥ
ゑまして天明三年七月家つきおれし五月

十一日彼方ゆゑ見くだしてまつり七月三
日十一日叙爵して大和守と称し今の名
よりこゝにこの四月十九日と三十六ヶ年
うきめ[illegible]ハ日尾張中将の方後閣へま
うのぼりを前をはこの日後閣へ登城
をまつる
十二日三緣山
惣伝院殿霊廟より牧野備前守忠精代参こ

の日坂崎金吾より村山主水丈貞休少年人組へ
授さる又尾郎より伊勢てきのふ落国より乃
ふりしを謝きそふ
十四日釋奠より聖廟より御側景郎因幡
守殿代参にて太刀馬資英金一枚御名鷹
あり土井大炊頭利厚ち社参り而郎摂津守
西田勘定吉り石川左近将監忠房ち叡山
心観院殿浄法寺のうちこのたび越くをもて

謁見をなす奥右筆見習松橋久五郎茂
齋ち職とる
十五日月次の御祝儀のさと伊勢金吾橋三
郎五郎没利殿河内守府の目付ようこれてい
とまたまこれよりさ記男子君生れさをた
まふといつともおゆめとろありて御
弘めハ一の名ハ時く助君と称ふまい
らせ松平丹波守光壮もめ系親のものハ

人統制の時たまうるもの堀田大学大輔正順
始め八人僧侶住職を謝し奉るもの二
人
十六日伊勢山龍山の博士石川主殿頭総師
卒去その子千勝総侍従遺領六万石を襲
し也この總師は日向守總博なりて寛政
四年閏二月十五日初見し奉てまつりその
十二月叙爵し同き八年五月六日家つき
さと六月廿三日卒去と二十七年なりし日
浄生誕の男浄子を称卒時に助君称奉
きこと
十七日新宮山
浄宮平牧野備前守忠精代奉る事叡山
心観院殿浄法号井日より少老立花出雲
守種周浄侍七日光立り格式をいと
きこれまこと種周して総督をめ諸職等

来のとものうち懇願をもさ[illegible]用[illegible]
まりて三家のうち[illegible]供[illegible]酒宴を家宴流奏
者等まうのうち[illegible]ふ
十八日同[illegible]法会まうも者ふも三家のうち
[illegible]供[illegible]て菓子たてまつる法この日大塚
護持院　権僧正[illegible]任[illegible]る又妻木菩提山
正大夫[illegible]奥同職元[illegible]ふ[illegible]と令[illegible]
ふ

廿日東叡山
心観院殿霊牌所法詣あり又内法会満を
られ[illegible]ようと[illegible]大炊頭利厚法供[illegible]て日
光つまる石銀時報をつ[illegible]いさ[illegible]僧中[illegible]も
おれ[illegible]ちつきものあり
廿一日法会総習上野大炊頭利厚見[illegible]
りて時報を初じ[illegible]祈[illegible]り阿部播磨守[illegible]
動定寺り石川左近将監方房同[illegible]山[illegible]

尾張藩士内藤見をゆるされる同人
よりて三家のうち〳〵併て四人
の内百人組の組頭甲府勤番の
支配となる
廿四日東叡山
寄敷院殿霊廟より光明院津田摂津守に敦代
参の御名代書院酒井左衛門尉様
つゝ中奥小姓小笠原安房守海恒御名代書
院と為り先手筒頭鳥居伝五郎者右相手院と
為り小普請より出役者〳〵のもの十人
廿五日吉祥の為り何部播磨守に由動定為り
石川左近将監方
心観院殿法名の為つとめをなしておわ
〳〵時報を鳴ふその他奥表右等のとゝろ
白張を下り為
廿八日寄合医多記安長元等日光門主光山ま

まつりごとのふるまひ
廿九日濱の庵園に特〻まねき侍る者三
四人なり
三十日高家六角主殿頭廣時朝臣伴ひて日光
つきに蒲萄一籠をくるまこい
心觀院殿法華滝にこのつきを法光山にて
うたふ山普請より出勤する人もの十人
九月谷中延命院日道僧律を授けられる日
より嚴科に處せらるゝ又柳原堤の側に報恩
を建てられる江武年表
九月朔日月次の有賀伯のさゝと牧野備前守
忠精子新次郎忠能石川内藤總兵衛初入を
る松平山城守信宏松平宮内少輔忠惠大岩越
前守忠稙柳沢伊賀守光被坂倉加賀守重
了謁見久世大和守廣登小笠原の嗣たまじ
臺山刑部少輔友泰松平岩之助忠令

南部主税伝兵ハ後河内府の博加藩ヨリ
九時たるに石川多膳総佐杉浦金三郎良家絶
しを謝し奉り名跡あり大藩沢菱沼伊
賀守定候坂城を藩主として及ぶ沢藩士も同
護持院権僧正を謝し石川左近将監宿
家福寿 危窮を謝し時ふくあるハ東京就
し謝し奉る
二日日光を参詣せられ来生ハ山して法

三日主陽の御祝として三家のうち〳〵しめ万石以上諸侯の例のごとく御時服をたてまつる

大納言殿〳〵おれ〳〵大書院黄沼掃津守定賢
裏子裏九　西博檢事石野筑前守範亮
子三次郎別家少納戸竹川三十郎兵衛名子吉兵
衛吟亜家合宇津大学教書裏子紀之助釼
〳〵め父死〳〵て家作くるもの　以下闕文

四日
西御所とゝ御茶の方とゝ等〳〵御酒茶
ちよ御懇あり
大納言殿まハ梅園院まて鍋茶る主陽の御
祝とゝて日光門主供〳〵て二種一荷を〳〵ふ小
納戸沼取中山志摩守伝徳〳〵て戸田采女正
氏教を吊慰をゝるまゝ老母死去をゝ知れ
五日交代家合牛車主殿主寛大書院とゝる

六日英太郎秋山好古亟惟祺おれ〻組既よ
准せらるゝ
八日東叡山
浅明院殿霊廟より浄土あり同山の
厳有院殿霊廟より和平伊豆守伝明代系図
九日金陽の住侯親のさと
十日東叡山
常憲院殿霊廟より土井大炊頭利厚代系図

言家前田伝湯号寺祇日光山
御宮代系図せられ嘆たまふ勢祀の事り稲
葉播磨守山武おれく嘆たまふ物和例
日同
十一日菊子代男鶴丸の浄祝ようて浄例
本門大和守泰行浄侯て薩摩国貞安の
浄刀平安城長吉の浄そく
大納言殿より浄例和平侯る事義生浄侯し

巻物十

御基所より女房して巻物十一種を延ま
いらせ候由申居候松浦越前守伝程同
御祝は白髪ゆく者より みくまり時報
を給ふ菓子代君より も弘二は巻物三を下さ
候少老京極備中守宣久おれ 御祝はすり
巻物五乗貞章院殿のうち 供して給者を
まいらせ

十二日三郷山

惟信院殿霊廟は松平伊豆守伝明代寄院
山内摂津守巻巻寄辛院巻巻誘ひおき宗
家土佐守巻策の孫ひたてまつるよりそ
の子松太郎巻武をして遣領一万三千石を
給ふ しこの巻巻寄八宗家土佐守巻敷ら五
男子して天明元年正月松平江守巻産ら嗣子
となりその年三月十五日初見したてまつり

四年三年五月廿五日郡つきその十二月叙
爵しかと七月十七日辛酉三十九歳
にて消役戸田大学正後る人組の所と有り仕
当能勢市十郎殿寛先年間所と有り
十三日一橋つかの宋地と等しきを御参略
一相済
十四日三縁山
文昭院殿霊廟より出ず大炊頭利厚代系

清揚院殿霊廟より奏者番小笠原壱岐守貞温
代系そのふ浄妙のおり名対面の者士
より時服を給ふこの日淑姫君のりさか博後間
へいしきを出ず止宿所
十五日日次の有賀伯の方と等出田考後守幸
専系親しく杉平左衛門少輔方惠能封のいとま
たまひ杉本肥見太郎紹方大久保常刀教者初

見しりてまつる山田松太郎参武鑒射を謝
し相生町に謝し日光寺より九毛長門守利隆
浦賀奉行仙石弥惣兵衛久功より初て任ずるの時
ゆゑ紙相紙を用ひ牧野備前守忠精より水戸
黄門この後強二度とゝつすゝくの沿ゆゑ
あり
十六日小普請より函館出張の九人
用ひ便相方よりの一人

十七日雨霧山
御宮
諸廟より出詣あり
十八日雨霧口切より昌と三家のこと
くより伺ひてまいりそろふ
二十日東叡山
大猷院殿
有徳院殿靈廟より相平伊豆守信明代参に

日光山代参役言家前田伝次郎長嶺勢礼の
事り稲葉播磨守山武山まで〳〵罷出役
当松平源大夫定堅病免して参会とある
この日大当俗五ツ時改時間〳〵与改とある
廿一日淑姫君尾邸へ〳〵時をぬかれ
廿二日時刻合印〳〵松平伊豆守伝明子長
次郎伝次初見〳〵たてまつる松平山城守伝光
就封のいとまたまじ供富小笠原弁庫伝通
小姓組長坂三大夫紹芳坂地目付たてまつる
り罷出山十人近日根九郎左衛門稲子弁助
勘侍小納戸三好中勢守補守貴子惜し
亟をもつめて見へ松てまつる
廿三日次上の庭園に第〳〵とそれより
神田移の邸へ〳〵とも〳〵供
廿四日三縁山
台徳院殿霊廟に土井大炊頭利厚代参

東叡山
孝恭院殿霊廟より少老立花出雲守稲葉
代参として家令共巡視をなし一戸田内猪氏浣
出清後とする
廿五日濱の庭園より等々を賞まて鴨
茶千提出のよ
廿八日勅定言野市郎右衛門武富坂城金
をもつて仰付らるる日〇本月沼祈禱の料金
らをもつて子四ヨ同
廿九日三縁山
有章院殿霊廟より松平伊豆守信明代として
況
十月朔日月次の献茶例のことく松平加
賀守斉廣松平阿波守治昭ハ〆め系統の
乃四人戸田大隅守忠寛ゑ蔵忠居ゑ〆め
て見へたてまつる　この日伊豆の国大島焼くる

より使進ず　武江年表

二日　一橋の家地に第〻きゝ法参の暇をゆ

玄猪に祝儀のことゝ　この日江戸市中殿中

武江年表

三日

大納言殿五ゝのほとゝ第〻きゝ法参暇

武田孫〻五郎村金弾正に金鍋等の家合

甲府勤番の支配物部摂磨守忠義ゝ云庫

忠寛ゝ上田紀伊守ゝ忠久保長左

衛門忠順ゝ平助　忠ゝめ父死て跡つくこと

の二十一人

四日　常陸国土浦の城主土屋侍従寅英卒

ゆえその子保三郎寛直ゝて遺領九万五千

石を襲ゝむこの英直実は松平芳丸ゝ

三男ゝて兄鶴之丞の養子の嗣子ゝなり寛政

二年五月廿三日家つぎ七月廿八日お礼謝恩

の日初見し藩士もあつまつり四月九日
在所へ帰下されて十一月廿八日叙寿しのち日
光代参仕又東叡山の成就寺に四月十年
六月十九日養者の事に享和元年十月
十一日病よりて職を辞しかとして八月十二
日卒にて三十五ちなし二百石家のをり
当射し当士二人より時服を給ふ
五月朔日生誕の祝として言家諸元養者書布

衣以上その他のともがらに席にまして餅酒を
ひさぐ所まて例のごとく散乱あり於半安藤当
亦賢仕て口切茶に解鯛添てたてまつる
日光の至これより さつ紀沙の紀例ふるにまて
一、この此のとさやうせめひ沙物ちてより
言家大友周幡当義方して問さふ沙對面
のふ又仕条さ〳〵と行ふ奥まて例
のまゝみ義出を催さる観覧のともがら規に

同養老年中相模国の住人熊坂龍麿祝
云ふ八幡社云二人祷名取川まれ
六日備後国福山の城主阿部伊勢守正倫病
ふ殺仕の浄ゆ[illegible]ありてその子主斗沢正
精をして領知千万石を賜ひこの正倫ハ加
伊豫守正右ふ者ふよりて明和四年九月朔日初
見ーたてまつりそのヽ十二月叙寿ー侍従ー
称ーのち今の名ふ改ためー[illegible]き七年八月

早下原書ニハ漢字ヲ採ニ之ヲ

廿九日[illegible]ふ安永三年二月十一日叙者寄新
[illegible]れー[illegible]ふ六年九月十五日ふ社寺の見
習とれふー[illegible]き八年四月廿三日ふ職ふは
ヽみ天明七年三月七日宿老ふのふ昇四位
下ふ叙ーのち八年二月廿九日病ふより
職を辞ー旧のごとく原の列ふいふふ殺
仕ーてのち文化二年八月廿二日卒ふとふ六十
一相平加賀守ふ赤庚口切茶ふ朝そくて献つる

日光山をうつされよう仕て墓所
一通をまいらせ
七日弱場野へ放鷹として出ること
鶉九羽捉ゆふ少老立花出雲守種周於て
て鶉一羽野ら
八日東叡山
浅草観音霊廟ヶ牧野備前守大藤代来る
九日吹上御庭ヶて大的御覧あり先毎月
写宮友三郎光徳火賊捕盗の為
十日江州坂田郡柳瀬
をうる
十一日蒙令松平小十郎定澄火災巡視の為
為をうる
十二日三縁山
惇信院殿霊廟ヶ土井大炊頭利厚代来る
十四日三縁山

又昭陽殿靈廟より出張あり護衛兵
本営出張覚あり出張不行いたさまて還
御あり
十五日月次奏例のとおり水野壱岐守
昭ヵ
詔書を偽造多年初見に付てまつる所郎
主計所正精出屋保三郎竜出より警封を謝
し秋りものあり秋田伝治郎澄事封地より
陸奥国三春の地
陸仕の子清次郎より陸奥国三春の地
へ目付永井鈴員出発を検視とてつかはさ
る筋相八金五枚あり日光より三橋兵弾正
家方系譜を本弥勒寺　伝職を謝し来
本殿にこの日赤乃牌一橋の前采地より
もとめ申もて小略三羽を獲めふ
十六日吹上西覚不り出られ弱対馬覚あ
り霜光少光見るを見をゆるす
十七日雨

陽宮代を建てまたこれうち〳〵に庭樹
をうえられ
十八日濱の庭園より蜜柑〳〵を送る
ちなみにこの日板間へ石三を〳〵をくる
二十日常陸国麻生の領主野庄駿河守重規
病により跡代その子義胤重斗計一不領一
万石を継むこの重規は故越中守重隆等
二子をもって安永元年十二月四日嗣子の日

襲封その月十五日
法眼院殿を奉葬おわる駿河守と改名
寛政六年八月八日大雷の災とれり同十
一年十二月九日職を辞し跡代子化五
年三月廿三日卒ぬ年五十八
廿一日立陽寺に献葬三家のうち〳〵
ハしめ連枝寺社奉行平主豪ノ長等
為ハ法用寺を物じ

大納言殿より書をもつて法心院金剛院
の住職となる
廿三日木下川のほとり鷺狩をして鳥〻をら
き鴨数多狩りあり
廿四日東叡山
浅草院殿霊牌下り戸田采女正氏教代参し
池上本門寺
御墓所ハ法側本多大和守参詣代参ハ
東叡山
孝恭院殿霊廟より少老酒井左京亮少将堂朗
代参
廿五日吉ヶ丶廿三日浅草のとり名射場士
二人時授を勤ル供奉して市拳の略を松平か
賀守参廣 松平讃岐守参侯へ下さる
廿七日先年丹沢米津周防守四将病免して家
合となる

十一月朔日以下の再答伺のさとし京極を
始め諸賢等合大久保隼人教富伊東主殿
祐等駿河江府の城かまえてこうり渡り物
庄寄九重計カ襲封せよとけしかけ
女不弥勒寺――色衣を謝し東叡弘勇まて
法催の鼓吹あり
二日これまさ紀さ月十五日姫君生れさつた
まふは服おとものこと表向江弘ふといく

とも此名八重姫君と称したてまつる
給ふる
四日濱の庵園を味はせ給ふ拾数略義千代
り田沼主計沢意伝辛尼嗣子れさまさ博
ふまこよ支封弱博少納戸市左衛門意英牙幾
ふ卿主定をして迷能二万石をつゝむこの
意伝実八山博雪意知り四男まして兄左衛門
佐意考ふ嗣子とす寛政六年八月十五日

初見したてまつり四月きさらぎ十二日九月廿八日
家つきさ二百石拾壽しこの九月さこの辛巳
とし二十二歳書院言尾伊賀守伝福寿丸小
納戸頭千郎伝一学介金田伊豫守西狄子主
原正恭小笠原越中守宗準壽子眠こ助起云
弱井安藤書安常子る岡ゝ助寛常四巻徒三
郎太英壽子留五郎太恒仁賀保大猪謙吾
子太佐五郎持弓頭大島雲八義和子云庫義

徒少納戸神織郎太策壽子寵八郎、、、も
しめ父死して家法くるものナニ人
六日去りし四日ホ等のをり多射書士一人
吋報を給ふ
七日備中玉庭瀬の領主板倉主水佐勝政病
よりて改仕の儀を元るされそのこ輝こ子勝
氏より能知二万石をつかむこの勝政実ハ播津
守勝興ら四男よりて兄主水正勝志この壽子とす

うて明五年四月廿四日家つき同廿八日襲封
謝恩の日初見にてまつりその十二月叙爵し
寛政三年六月十六日和田倉口の成とあり同
九年四月十九日火災の為聖像迂座の事
ありて翌年十二月十五日織部佐より
らいつめて保十三年二月廿二日辛酉とて七十
八
八日東叡山

法明院殿雲廟に於て平伊豆守信明代参に
小納戸花村大学傍正彫久田孫太郎　小姓
とあり
九日三河国のほとりに放鷹として鶴うさらを
鷺鴨を多く捉ひ給ふ
十一日吉にて九日亦の代参対馬守
人時後を給ふ
十二日三縁山

惇信院殿靈廟ヲ牧野備前守忠精代参ス

十三日伊勢ヘ下向ス

治好ノ為十四人

十四日尚書ヲ岩山角四郎左衛門定浩発ス

て家令となる寝物あり小普請医湯川安庵

元代坂出菴宗之当医となるこの日吹上

て園的の所望あり万年記

十五日日次の為賀儀のため松平紀前守

赤坂氏親戚那須の者二人も来宿ス松平大

和守屋敷ヲ屋敷温初見ヲ立てまつる板倉

摂津守多賀氏因沼幾ら助高定ヲ家老ヲ

謝ヲ申ス此ヲ然ル甲府勤番の支配酒井

内記大負物有て赴任の時たまひ叙爵て

ヲ時雪とあらしてその益告ヲ初見ヲ

てまつる若崎寺ヲ紀因幡守松平宗倫ヲ

十六日大雪ヲ冒て拾木清左衛門恭元発ス

小普請とゝゝ宴会を催ふこの日吹上にて
仙蓬を視ふ
十七日駒込山
御宮に松平伊豆守伝明代来る日光に立寄
て口切茶に蜜柑そくてまいらせこの日
碁将棋のものをして乗物を闘をせ
十八日大川のほとゝ鵜を見ふ小鴨響数
多く狩捉を又猟を視ふ御猟不い給
四安邸別墅にて鉤を松平肥前守治義
め供奉して有ふとの四人
十九日家合堀田さゝ助一橋殿御役とゝ大
番与頭山岡平右衛門京亜留守居番と孔
徒頭能勢吉四郎新護少十人頭三宅助ゝ允政
甫ゝ先角頭とゝ四安邸用人常見三
右衛門亜達弼兼門の頭とゝ西條小納
戸設乗三郎貞吉徒頭と孔同小十人

沢江る平左衛門季寛が城ようつり用小姓組
を勝頼左衛門常規西條小十人組とあるこの
日杉平兵衛弟利孝小〻めし人〻供番て有
一つ〻下さる
二十日巳宮先福寺京智積院住職とを
らる
廿一日吹上より鉄砲を南部弓内覧あり
陸奥国三春の城主秋田信濃守謙季病よりす
ぐれ給ふ故その弟安東乙之助孝
季を申なしてお仕五万石をつ〻むこの
謙季ハ故山城守倩季の子よりて寛政四年三
月十五日初見し給てより五年十二月叙
爵大炊頭と称し給ふの方河内守まと今の名は
なのゝしめ用を九月九日二十日家法を定ふ
致仕して文化八年七月六日卒去と三十
六歳年沢戸田次郎左衛門由右老免況

廿二日共田豊後守幸專招め伝書をして房下
さうゝとの三人
廿四日東叡山
孝恭院殿靈廟より老京極侍中守高久代参
江戸表番組御新番毎月勝船を以て
廿五日濱の庭園より帰りさゝ侍従参の邪い鴨
為干物遣ぬふるをひりこの三家のう
さく付て高家諸流奏者番まうし出りう侍
りう紀うゝふこの日父殿付てる家作く
家人二十三人伝奏駒牽入の子つとめし相平
政子代ら家人ゝ物相あり
廿六日日光門主及婚礼方丈侍相然し空井
出りうきうゝふ相角殿相木修理業総諸年
物とる
仙洞附大久保大隅守忠良相角殿とする
廿七日和泉国岸和田城主岡部美濃守長倚

いとまの暇を乞さつきそのるを井沢弥惣兵衛に遣
領五万三千石を譲りむこの長倫に右駿河守
長倫ゝ一ゝ子ゝて安永五年七月朔日
浚明院殿を毒ゝ奉りその八月十八日薨去
安永六年の冬従五位下ゝて美濃守にあらさ
ゝめ翌年十一月廿日卒せ給ひ年四十四この
日奥ゝて宿老のともゝ市郎の屠腹ふ又松
平伊賀守忠温姫路侯ゝ乃六人小普

請組の支配船越弾正忠京都病免ゝて家合と
ゝ大番頭永六郎左衛門正英源義源太郎
観憑たるおゝ与況とゝる
廿八日南部右京亮のゝつとめ南部大膳
大夫利敬家人百ゝ余ゝ人の奮ゝ用
廿九日工手等ゝ出ゝ給ゝ等ゝ出奮放たる
て有暇小警物ふ
三十日光門主ゝ病ゝ重ゝ給ゝ

浦賀面あり目付山本弥惣兵衛
伊豆守とあり多分初雪ふりしゆハ三家の
のさく用世ゑよりはまいりさきあ
うのくふ
十二月朔日次の書簡の趣伊の
内書浦賀奉行平沢淡路利幹名利大和守統訓
使朱吉岐守義知酒井左衛門尉忠徳丹羽左
京大夫長祥牧野佐渡守宣成渦爲紀伊守忠
知川と修復の事ありしよりおのく時
報を給ふる事あり五爲大和守豊逞系親
況目付水野勘兵衛忠堯秋田信濃守禮季ら外
知陸奥守忠三郎ら
浦賀のおり多射当廿二人時報を給ふ大目
付安藤大和守惟徳藤原ともあり是とも足未
八生修給ふ
二月筆者の寝物の如く有栖川二品内務卿織

仁親王殿御宮ニ九月廿日下向より当
寺居相浦越前守伝程
基の上用人左條伝次郎長祇月付伊東右馬
祐書付出石野彦左衛門廣温より長崎護送
の子細をうる府より当寺居酒井因幡守殿
教
基の上用人中嶋伊豫守彼来り
三日宮中をとりとられて供して日光門主及
坊上方方丈より檀家をつうかさて所寄合火災巡察
寺ゆうしゅ屋彌学光寺池田伊三郎長休久世
政三郎廣宗相平家宮御寄讃城田孫之丞
一知井上修理亮石川主右邦主治繁原
助頼門中奥の小姓とある小番佐方政治より
小十人組より入るもの一人市ヶ谷御の褒賞あ
り
四日西海小姓加藤沢治右衛門中奥小姓と

ばる者ども家老の襲撃に出る
五日交代寄合伊東左京亮祐兼養子岩丸祐
溥をして父死して家督せしもの七人の博打角
沢城田出佐吉山崎田中勝知良小菅清組の者紀とあり二九
冨田雪庵安藤九郎左衛門伝次安西博先角
沢とあり出張番小姓八郎兵衛長お孔与
沢とある表右筆二人小十人組六人徒士又一
人動定人物とあり
七日金地院信祝職の子合とあり法山姓
組与沢河野主税面毘尤免して家合とあり
時鐘を鳴す
八日東叡山
浅間院殿靈廟に出御火炊沢利厚代参沢
この日西城廣敬書の沢田中吉義正純表右
筆組沢とあり西丸切手番の沢谷左仲柄的

同廣嘉書の所とあり表右筆弘所前田
左兵衛安致あり九日付書の所とある
九日川渡利の名書りし西川越中守沼
益酒井左兵衛尉忠世井伯左京大夫忠祥相手
渋海弓利幹牧野信濃守宣成渡邊紀伊守重
知毛利大和守秀刑伊東長義知家人ふ
時後白銀五枚あり
十日篠塚の賞行うるる例のごとく

十一日次上之第をもれ弓射出覧あり
十二日三緑山
惣伝院殿雲廟代参使立ることこれうち
〳〵出産穢よりてえさのふ弓射出覧あ
りしをもてその師家合出笠原正兵衛常方
より時後を給じ射手のとものこと二十五人をの
〳〵金を給ふ
十三日手任の日とて放鷹として始めをる

時の物ハ悉雇賃給料れ拂蔵敷のことを
日光つを三家のこのとく并場上方方へハ
八代寄村を、くをきるこ多俗のことを
十四日ふる家督賞ハる杉平上野介
出義幸ハる主税助出寛をく遠領三
万石を続ぐ此この 以下闕文
十五日月次毎笑俗のことを尾張中将斉敬ハ
姉女婚嫁の子を謝をれ供てものまいく

をくハ城内大義大補正頂をめ系親六人那
須元福原内匠資ハる久米ハ助をめて
見へ出てまつる秋田乙ハ助孝季家継を謝
して金壱拍ハ言そへて言る滝笑寄り他名弥
兵衛久切系渡ハ去りし十三日成の為り
多村書士二人時報を物ふ
十六日杉平次郎利幹ハ信下ハきいみ
その他ハ五位下ハ為るもの廿八人五井三

郎利謙伊豫守石川四郎総兵衛江守相金
輝之進勝氏主水佑大翼吉大郎博陽義能
守山内相太郎光武主計守大久保常刃教
孝出雲守米倉右京昌田丹後守松浦全三
郎良織郎正彩庄兵衛九左衛門越前守四沼蔵
之助意定主計頭松平太和守忠恒石丸知
光大隅守牧野備前守太精子彩次郎太張
河内守酒井左兵衛尉太徳子彩太郎太忠松

津守松浦壱岐守清子三穂松熙紀前守牧野
佐渡守宣成子出太郎以成光前守水野壱岐
守太紹農子儀之丞太兵衛周防守大富次郎井
主殿主寛壱岐守小普請奉行堀屋源八郎
時定左近守井奥少將忠次郎若狭守末
根孫助改曉紀後守少將佐野豊五郎光行左
京亮木村庄橋貞休主水佑井野定之助清義
播磨守松平太左衛門勝負上野介弼博少將

能勢丹後守殿山名左衛門督義格家計
記小納戸岩谷川岩之丞保邦左右田城小
納戸平吉左衛門正真左衛門と申候
杉平加賀守殿廣徳（齋）より家士一人勘壽
左衛門さま方夜の士に加へられ候ものニ十人
人小普請組支配久貝左兵衛正貞生駒主
小濱半五郎妻隆安屋内蔵助廣栄戸田内
藤氏浅場田幸之助二權留守居蔵山吉平右
衛門京屋伝蔵右衛門多代左衛門立花
郎弘蔵荒川彦次郎義行山岸彦右衛門利族
榊原平十郎政堯世渕市大夫彦智世能蔵与
郎糟屋八蔵正長西城裏門蔵之助原田半左衛
柱芳徒組小山彦三郎英有西條小十人組久留
源三郎正邦大野彦助左衛門常規松倉組郎
彦毋貞彦西條納戸組徒右衛門左衛門佳面英右
筆組組秋山杉之丞惟祺小納戸中山勘右衛門

伝弐神保新五左衛門尉忠勝
松浦安太郎孫傳兵衛小兵衛
英ちりまさ法眼より勅すること
なし一甫彝珍兵衛奥医川島宗瑞昌言
瑞玄明恒塙山養甫正恬
玉井宗毋ゝをゝ伊藤部
豫を供として昂慰をゝる再雪降しよ
り三家供ては起居を候ること

十七日参山
御宮ゝ牧野備前守大精代参
祝として日光ゝ供して二程一宿まいりを
らるまさつを山より山より宮
家戸田備後守氏睦供して時服拝を
くゝをゝ先手筒頭高山三右衛門宣忠
城持筒頭と高塙上右衛門弘海結城弘綱
右住職とをゝ

十八日　石清水

御宮参

諸廟ゟ御詣あり

十九日　濱の庭園ゟ出船　さゝ原出巻鴨茶

干物ゟ　ゆゝ水戸中納言治保卿のもとゟ

牧野備前守忠精出羽大炊頭利厚御供て

中将治紀卿息女頃姫のこと二條左大臣治

孝公ゟ中将　齊　承伝卿姫のこと雪月花大

臣政懸公ゟ大納言政通へ婚姻の事仰出さる

よて治保卿父ゟまゝ許ゟれ謝　たてまつ

ゟ　当医田中澄川玄的日光ゟ登山ゟ

そくて　ゟハゟる　つさゟ　家きゟる奥方者

強て　指　山　松ゟ　惟祺ゟ表方筆金ゟ　維良

父の蔭ゟて　当　ゟう　つさ原幕　ゟ　大野左門

義着老免して　小普請ゟる　養金を給ぶ者

右丹波守忠素供　番て　ゟ　ゟ　大田備中

当資堂にて同
二十日光山登山ありまゐられ候対
面ありて饗應あり茶会火災の地巡視
をなし大久保吉蔵太陽火消役とあり
少姓組頭屋勝五郎正芳おれ与助とある
せて家号の祝として三家のこと〳〵
〳〵め万石以上松平重豪乃屋敷為拝
当係のものなり時役はてまつる

大納言殿〳〵おれ〳〵小老京極備中守宮久
年老〳〵まて勤務怠〳〵さるを〳〵もて郭が
供を以免あり又西海道側岩本内膳正正利
おれ〳〵ゆゑ岩本より郭が供を以免
の〳〵紅裏着するゆゑをもて西〳〵あり去
り〳〵十九日光の宮のをり参射当士二人時役
をもちゐ城内大玄関大猪正明く供番して乃
をゆきこの日奥まて(申)乃の時過あり係の学館

覽免さるゝ事ハ絵写ル太度砧井の雪竜太鼓曽
博 妖狗 紀狂云ハ目近来買水汲形義意節分魚
形り
世ニ名高き杉平伊豆守伝明病ヨリ請ル
まゝ職免ス是日班ヨリさるこの日丈老
のとも〻〻ハ陪客の席をめぐ負章況尼の
ごと用人泉左ヱ門助太等ハ基不虞義書の
郎本曽七郎左衛門義色賄賂大未金助等則
明乗ハ五郎義村勘定組頭岸彦十郎雅法拂
方金奪り杉浦助左衛門　同上ニ与場助
左衛門義年小普請方壬義重義川松改仮
久須美六郎左衛門祐明西博義所改江見形
五郎汝久民部の方郡奪り西村左太郎武邦
とも〻永く有馬の上の列るかゝ事
世ニ名悪時の新舎あり家合石川岩之丞総集
西博目付杉浦大猪太子熊之助　佐竹出笠

京政之助重伝子孫ニ至伝順ニ後動右衆の
用弥吉子十兵衛　日根野織部弘資子ニ
近　也渕市大夫秀智子ニ来る　徒ニ坂部
善次郎重之子孫五郎　少十人ニ小出右京
亮吉傳子又五郎　奢匹ニ田山七兵衛永恭
子義十郎　〃め初見のもの多ク弱味
目付石谷周防守清豊ヨリ御定吟
味役沢次郎右衛門幸純弱味目付とする松平
和泉守忠寛　〃め爲ちるもの十七
人西城ハ側岩本内膳正正利ハ後ニて第子代
のこの水痘湯を祝ニて鮮魚を送らいさ
ら万年記
廿四日東叡山
参詣殿霊廟ヨリ少老堀田摂津守正敦代
参ル嘉吉の例祝ニて増上寺丈山川伊
豆ニ嘉吉の例祝ニて増上寺丈山川伊
豆ニ詣ずる此ものに於てまつる家合長田羽

豊吾明出羽左つ利者ともよ火災巡視のゑ
命をゝる勅定組頭大田備後守邦林寺り
ときゝるこの月十日姫君はれさてたまふ浅野
於みをのうと表向弘めちゝといくと呼名
浅姫君と称ゝまいゝこよひ遊儀の式祝祝
のさゝとゝ来女正氏教これをつとむ日の仕
ゝて御出棚後撰和歌集
墓のうゝよはゝ墓安乗院富士造物と

て献をゝる万年記西博つハ乃京竜ちり
廿五日立墓仙石越前守久道亀井強次郎
矩賢久鉄
御宮その他修復のゑ事ゝまりおの
ゝ時役を勤ふおよびその家人ゝ物物さ
事ありこゝてし姫姫御姫のこさ婚嫁のゑとを
り水戸中納云治保つ父子仕ゝてものまいゝ
を謝ゝたてまつらゝる旗事り長田河波守繁蔵

嘉子西城月付ハ左衛門尉昌弘城留守居ニ為
供ヲ申改名ヲ清左衛門ト改先ヲ清役巨勢十左衛
門利春ヲ狭八郎　　先母筒井筑前守義正廷
子安次郎　西城先母筒井坪内久四郎定英
子右膳定良出家ニ成出家ニ成ル市左衛門秋素嘉
子熊三郎　西城裏ノ書ノ所近ク左衛門安
祝孫彦五郎安通ヲ〳〵め父死〳〵て家ヲ立くも
の二十六人又永年出羽ヲ尚依始六人〳〵名を
下さる表右等里見八郎左衛門義章用〳〵ニ成
と云
廿六日東叡山
玉心院殿霊牌下ル浄側ヲ打抜弾ヲ清寅
代ニ成ル伊達ニ狭ヲ村芳賀伯ヲ長輝来素
ニ向公ハ彼仲家ヲ〳〵清代安子川八郎左衛
門　嘉子伊与清　　菅沼安十郎定昌子ヲ三
郎定立義ヲ切為長三郎清寅子ヲ為ニ助

勘定吟味方改役大瀬邦三郎常成子雄之
丞父運勘定方村山百之助惟毅養子辰五郎
中村与兵衛某伜子久左衛門 長尾貫
一郎資尹子嘉一郎 めし出されて勘定に
ことなりその他小普請よりも出るもの等こ
多し 明の東叡前に宇佐宮筑前に香椎宮等
幣使立らる まうりさうらし 七日あり松平
伊豆守信明にめし八人宿下させる

廿八日月次の拝賀例のことし僧侶住職及祝壽
華竜を用ささるもの多し 従五位下に叙す
るもの三人秋田乙之助孝季山城守松平主税
助玄寛大蔵少輔西城小姓組番頭森川織部
俊世下総守とあらたむ 布衣の士にかはるも
の二人也 消役大久保玄蕃忠陽小姓組与頭蜂
屋孫五郎正堅なり 飛騨郡代小出大助照方
二丸留守居となる

日本政府図書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan